



学長就任の「挨拶」

香川短期大学学長 加野芳正

■香川短期大学同窓会の皆さん、初めまして。この四月より学長に就任しました加野芳正と申します。どうかよろしくお願ひします。

■私は一九五三年に岡山県の高梁市で生まれました。岡山には備前、備中、美作という三つの国があり、高梁は備中の城下町として栄えたと、中心を流れる高梁川と備中中山城が有名です。高校、大学と陸上競技三段跳びをやっておりました、才能もなく、輝かしい記録もありませんが、練習だけは熱心に行っていました。理系の大久保先生も、大学院では教育社会学を専門とされて、そうした縁もあって、香川短期大学に呼んでいただきました。

大学院を修了してからは香川大学教育学部に三十七年間勤務し、この春定年退職しました。私が香川大学に赴任したのは一九八二年ですが、瀬戸大橋はまだ工事中で、岡山から宇野線の快速列車と連絡船で高松に着いたのをよく覚えています。その香川大学では、いじめや不登校、体罰、学歴、ジェンダーなどの教育問題を中心に本や論文を書いてきました。若い頃には各地で講演活動をしておりまして、中には「加野先生の話聴いたことがありません」といわれるほどです。最近では専門学校で養成されていた看護師がなぜ大学に置き

発行所
香川短期大学同窓会
オリーブ (0877) 49-5500

責任者
中川 榮子
会長

印刷所
四国システム印刷株式会社
(0877) 49-0142

を語らなくてはなりません。が、正直言って高邁な内容のものはありません。ただ、責任の重さは日増しに痛感するようになっておりまして、それは二〇一七年に創設五〇周年を迎えた短大をどのようにして発展させていくかという、年に繋げていくかという、この一点に尽きるのではないかと思います。少子化が進みます。女子の四年制大学進学が急拡大するなかで、手を打たなければ短大は確実に衰退していきます。「ジリ貧」とは「無策の証(あかし)」と聞いたことがありますが、さまざまな知恵を出して、短大をさらに盛り立てていければと思う次第です。現代社会は知識基盤社会といわれ、国民全体の知的能力の向上が豊かな社会や「豊かな人生」を築いていくのに不可欠です。短大は地域社会から子どもを受け入れ、高等教育



香川短期大学学長 加野芳正

育を授けることによつて、専門的な知識を身につけた職業人として、あるいは、よき市民(シティズン)として、地域社会に返すという役割を担っています。この使命は、時代が変わっても不変のものではないでしょうか。

先般、香川大学の学長をさがされた木村好次先生から「持ち前の明るさで、楽しんで大学に下さるものと期待しています」との激励をいただきました。短大の生き残りや、将来の発展もさることながら、まずは短大の教職員の方々と手を合わせながら、明るく元気な短大にしていくことができればと念じています。そのことによつて、学んでいる学生たちも楽しく有意義な短大生活を送り、「香短で入学してよかった」「香短で学んでよかった」と思えるのではないかと思います。

■最後にとなりましたが、香川短期大学を卒業された方々の総数は一万二千人を超えています。母校が活気に満ちているな、頑張っているな、そのように思っています。短大にしたいと思っておりますので、何とぞご支援よろしくお願ひします。

読万卷書 行万里路

遊学のすすめ

経営情報科教授 毛 勇

16世紀、明朝の中国で、陽明学を開いた王陽明が「知行合一」を唱えた。「知行合一」は、朱子学における先知後行説の問題点を批判し、「知行並進」「知即行」、または「真知即行」という思想である。「知」と「行」が互いに分離できない一体の関係にあるという「知」の捉え方は、陽明心学の神髄であるといえる。

周知の通り、わが短期大学が掲げた建学精神である「愛・敬・誠」は、そのルーツを追溯すれば、陽明心学に辿り着く。それゆえ、われわれの人材育成プログラムも従前から、「知」と「行」の一体性を理解した上で展開してきた。



辻一馬教授を中心に、アメリカ(Hawaii)コースとヨーロッパ(フランス・イタリア)コースという二つの海外遊学プログラムが創設され、毎年、それぞれ10日間の日程が組まれた。90年代半ば、筆者は辻先生を補佐して両コースをそれぞれ2回ほど経験してきた。後に、98年より、辻先生と一緒に中国コースを考案企画・運営しはじめた。目下、わが短期大学運営中の海外遊学プログラムには、イギリス、オーストラリア、中国コース等がある。筆者が携わっている中国プログラムは、毎年夏休みの9月と春休みの2月に、両コースで実施している。それぞれ、中国・無錫にある江南大学および中国・蘇州工業園区職業技術学院と連携しながら展開している。

江南大学でのプログラム

が、7日間の日程で、生活文化学科の在学生を中心に参加したものである。「生活文化」をテーマにし、中国揚子江デルタ地区の衣・食・住等民俗・文化及び大学生・留学生の学習生活等に対する考察並びに学生同士の交流を重点に置いたものである。(詳細は、香川短期大学ホームページを参照されたい)。

一方、蘇州工業園区職業技術学院でのプログラムが、5日間の日程で、経営情報科の在学生を参加対象としたものである。「ITと観光」をキーワードとして、韓国を代表するSAMSUNG電子や中国旅行会社大手の同程旅行社など数多くの企業と連携を図り、A+研究室や自動運転のシミュレーション設備も投入し、実践的な人材を育成する産官学の蘇州モデルを視察するとともに、世界遺産に登録された名園も見学内容に含まれたプランである。(詳細は、香川短期大学ホームページを参照されたい)。

大学祭開催のご案内

香川短期大学祭
10月19日(土) 10時~20時(入場無料)

Let's go 今年!
Let's go 香短!

拓(カウ)〜未来へ〜

日時 2019年10月19日(土)・20日(日)
時間 10時~
テーマ Let's go 今年! Let's go 香短! 拓(カウ)〜未来へ〜

「読万卷書、行万里路」の出典は、王陽明と同時代に生きた著名な書画家である董其昌の作品に拠る。明治・大正の文人画家であり、儒学者である富岡鉄斎がこの名句を座右の銘としたとされた。21世紀の今日、ネットワークで複雑に絡み合い、バーチャルリアリティ到来の時代に生きられるわれわれにとり、「万卷の書を読み、万里の道を行く」ことが、なお有為であろう。常に、時代の「知」を生み出す「知」を求めつつ、人類文明の持続とその発展に資する力を身につけるためには、読書で時代を越えて先人に学び、旅で空間を越えて未知の世界に学び続けたいものだ。

追々文中の「遊学」とは、「海外文化研修旅行」を指す。



ご案内



★令和2年度管理栄養士国家試験対策講座開講

日時：令和2年4月12日(日)より、8、3月を除く毎月第2日曜日13:00～16:00
 なお、令和2年度の前期の講座は4/12、5/10、6/14、7/12、9/13を予定しています。

場所：本学食物栄養実践給食実習室
 講師：本学食物栄養専攻教員
 受講料：無料。

ただし、基本的なテキストとして、クエスチョン・バンク管理栄養士国家試験問題解説2020(医療情報科学研究所編、メディックメディア発行)を使用致しますので、各自でご購入をお願い致します。

対象：本学の卒業生及び在学生
 お申し込み及びお問い合わせ：下記の連絡先に、TEL、FAXまたはE-mailにてお願い致します。
 連絡先：香川短期大学生生活化学科食物栄養専攻 次代一
 TEL:0877-49-8071 FAX:0877-49-5561 E-mail:tsugita@kjc.ac.jp

★令和元年度管理栄養士国家試験対策講座開講

令和元年度の後期の講座(開講日:9/1、10/6、11/10、12/1、1/5、2/2)が始まります。あらかじめご連絡をいただければ資料をご用意致しますので、自由にご参加下さい。(今年度からは日曜日に開講となっております。)

また、第33回管理栄養士国家試験では1名の卒業生が合格しました。おめでとうございます。今後受験して合格した人は是非ご連絡ください。ご健闘をお祈りしています。

★「パラリンピック体験講座」の案内

日時：令和元年12月7日(土)
 場所：本学1階ホール
 パラリンピック競技種目である「シッティングバレーボール」の体験講座を開講いたします。詳細はホームページをご確認ください。



★「介護研究講座」の案内

日時：令和2年3月5日(木)13:00～13:45
 場所：本学2階講義室
 生活介護福祉専攻の2年生が介護研究の発表をいたします。聴講お待ちしております。

★子ども学科保育士支援制度

子ども学科では保育士として就職する方を支援する保育士修学支援制度があります。この制度は入学後に申請する制度で保育士として就職する学生に貸付する制度です。

香川県保育士修学支援貸付制度：入学時と卒業時に20万円、在学期間中に月額5万円の貸付される制度。5年間香川県内保育園に勤務すると返還免除。

丸亀市保育士就職準備金貸付制度：卒業学年対象で丸亀市内の公立・私立保育園に就職内定している学生に就職準備金最高30万円の貸付制度。3年間勤務で返還免除。

丸亀市保育士修学支援貸付制度：在学中の修学期間中に月額3万円貸付される制度。3年間丸亀市内保育園に勤務すると返還免除。

★令和元年度「子ども劇場」について

子ども学科では毎年地域の幼稚園、保育所の子ども達を招待して、ブラックライト、体操、ダンス、器楽演奏、ミュージカルなどで楽しんでいただく「子ども劇場」を開催しています。今年度も子育て支援施設や一般の方々、卒業生や高校生に自由にご参加いただける日を、下記の日程で行いますのでご案内します。

日時：令和2年1月18日(土)10:00～11:30(開場9:30)
 会場：レクザムホール(香川県民ホール大ホール)
 入場料：無料

★子ども学科公務員試験対策講座

子ども学科では学科独自の公務員試験支援として、公務員試験対策勉強会と就職対策演習の2つを行っています。公務員試験に必要な教職試験科目、専門科目試験に加え提出書類の指導、面接指導、個別対応を4名の教員で指導しています。毎年20名ほどの学生が受講し、4年制大学編入、公務員就職を目指します。今年の4月には7名の学生が香川県内の公務員として採用されました。

また、卒業生で公務員試験を目指す保育者のサポートも行っており、これら総合的なサポート体制で、公務員を目指す学生一人ひとりに寄り添って、学科一丸となって支援します。

「ボケ」てきました。そのころはまだ「ボケ」といわれ、認知症という言葉はなく、道を歩かれるのをさえ恥ずかしい気持ちでした。2000年に介護保険制度がスタート。高齢社会へ向かってソーシャルワーカーである社会福祉士に期待が集まり、介護支援専門員も誕生。介護を支える介護福祉士の専門性にも期待が持たれました。

「ボケ」てきました。そのころはまだ「ボケ」といわれ、認知症という言葉はなく、道を歩かれるのをさえ恥ずかしい気持ちでした。2000年に介護保険制度がスタート。高齢社会へ向かってソーシャルワーカーである社会福祉士に期待が集まり、介護支援専門員も誕生。介護を支える介護福祉士の専門性にも期待が持たれました。

「ボケ」てきました。そのころはまだ「ボケ」といわれ、認知症という言葉はなく、道を歩かれるのをさえ恥ずかしい気持ちでした。2000年に介護保険制度がスタート。高齢社会へ向かってソーシャルワーカーである社会福祉士に期待が集まり、介護支援専門員も誕生。介護を支える介護福祉士の専門性にも期待が持たれました。

●本部だより●

- 評議会**
 令和元年度評議会
 於 短大2階会議室 4月13日(土)
 1.平成30年度会務会計報告
 2.平成30年度会計監査報告
 3.令和元年度行事予定
 4.令和元年度予算案作成
 5.会則の変更(評議員の任期)について
 6.オリープ会報について
 7.新役員紹介
- 学内ニュース**
 <平成30年度退職された教職員>(敬称略)
 石川 浩 山西 重機 木谷 紀恵 能登原 英代
 齋藤 佳子 井上 奈智子 田中 里沙
 <令和元年度採用された教職員>
 加野 芳正 織田 友通 順子 岩倉 洋平
 吉井 結美 荒谷 友里恵 田村 充 大石 真弥
 高島 美代子 安藤 正光

平成30年度決算報告		令和元年度予算	
収入の部		収入の部	
前年度繰越金	125,081	前年度繰越金	528,385
会費	1,180,000	前年度繰越金	1,180,000
定期預金増額金ほか	607,170	定期預金増額	222,343
計	1,912,251	計	1,898,728
支出の部		支出の部	
会報印刷費	72,900	会報印刷費	72,900
通事務費	875,795	通事務費	783,400
事務費	607,579	事務費	602,060
会費	14,572	会費	20,000
管理費	5,000	管理費	10,000
予備費	10,000	予備費	410,368
計	1,885,846	計	1,898,728
差引残額	526,385	差引残額	0
※入金会納入時期を2年間に変更		資産の部	5,598,962
		定期預金	

新役員紹介
 母校を身近に
 会長 中川 肇子
 この度、令和元年度香川短期大学同窓会、オリープ会評議会を選任いただきました会長に就任いたしました。幼児教育学科第13回卒の中川肇子です。平成から令和へと新しい時代を歩み出した年に、オリープ会役員も大幅な改選となりました。初代会長辰原は幸子様、前会長五嶋啓子様はじめ諸先輩方の築かれた活動を、新役員メンバーと協力し継続してより充実したものになるよう取り組んでいきたいと考えております。

前会長様より「監事」のお声をかけていただいたのが約10年前。適正に処理している会計報告書等を見て又、設立からの活動の様子を聞きながら、それまで何気なく手にしていた会報の重みを強く感じたのを覚えています。現在の会員は一万二千余名。会報が届いた際には「愛・敬・誠」の建学の精神に基づき、学んだ学生時代に思いを馳せていただきたくないと考えています。そして何より、母校を身近に感じてもらえればと思います。

オリープ会の目的は、会員相互の親睦をはかると共に母校と一体となって教育振興の実をあげ社会福祉に寄与することにあるとされております。多くの会員の皆様が楽しく交流できるオリープ会を目指してゆきたいと考えております。引き続きご支援ご協力を心よりお願い申し上げます。

副会長 山下 哲司
 こんにちは。今年度から香川短期大学同窓会オリープ会副会長をさせて頂いたいただきます。山下です。
 私が入学したのは2009年4月。入学先は生活介護福祉専攻。その年の3月まで地方公務員でした。再就職という選択股もあつたのですが、入学を選択しました。「何故短大へ?」といった質問も数多く受けました。私は「福祉と介護を学ぶため」と答えました。先生方をはじめ関係者の方々は違和感を持たれたのではないのでしょうか? 同級生の多数は18歳。私にとって辛い10代のことです。それでも年齢は十歳以上離れています。

副会長 光岡 和子
 「ボケ」てきました。そのころはまだ「ボケ」といわれ、認知症という言葉はなく、道を歩かれるのをさえ恥ずかしい気持ちでした。2000年に介護保険制度がスタート。高齢社会へ向かってソーシャルワーカーである社会福祉士に期待が集まり、介護支援専門員も誕生。介護を支える介護福祉士の専門性にも期待が持たれました。

卒業生にオリープ賞(同窓会会長賞)授与
 平成三十年度は、経営情報科の山本末来さん、井川貴史さん、木下沙也果さん、杉原里奈さん、鈴村智海さん、高橋和宏さん、本多彩江さん、中村帆花さん、福光史歩さん、眞鍋果実さん、三野真悠子さん、宮崎真帆さんに授与いたしました。12名の学生は、香川労災病院の職員と、病院の理念を元にした患者さまへの「おもてなし」について考え、地域社会に貢献するとともに、本学の名声を高めました。

